

Be Proactive!

校内研究便り ①
令和7年4月2日
研究推進委員会

1 研究主題

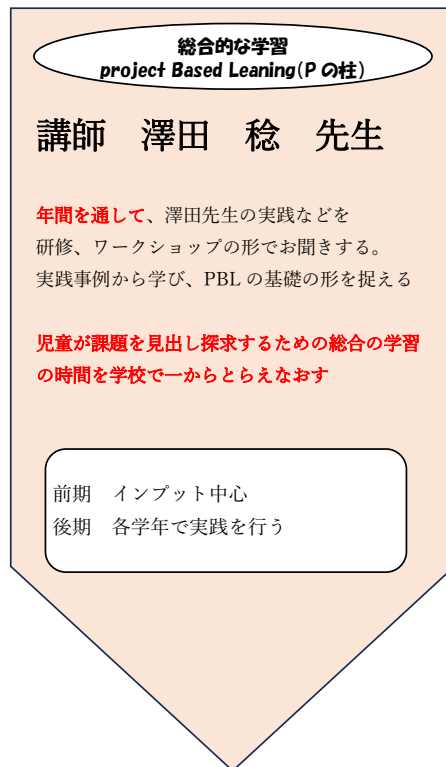
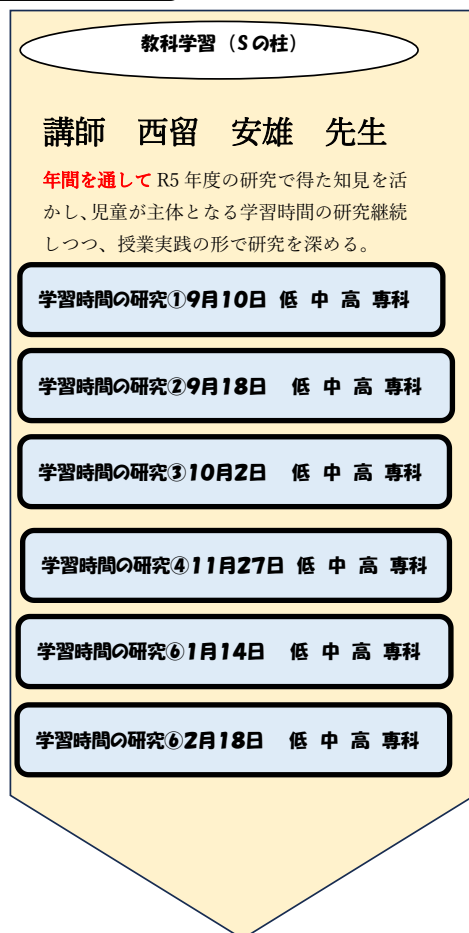
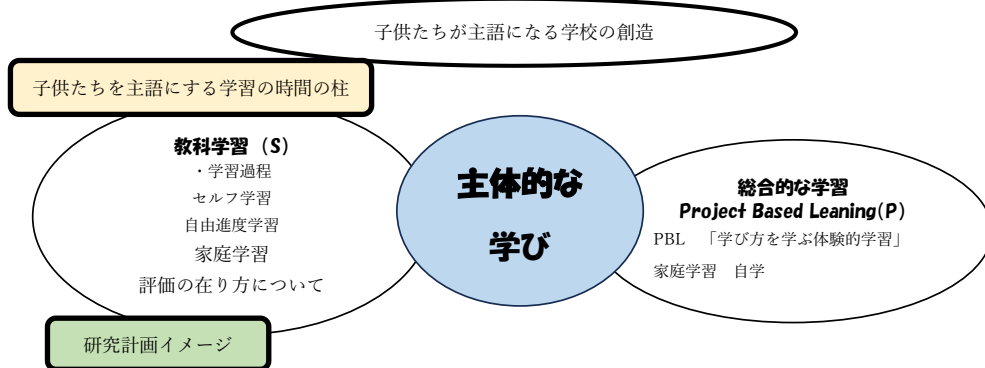
研究主題 『児童の主体性の育成』
～児童が主体となる「学習時間」の創出～

2 昨年度R6研究イメージ図

研究主題 【『児童の主体性の育成』～児童が主体となる学習時間の創出～】

「子供たちの幸福な人生 Well Being の達成」

自己肯定感を高めるため、児童の主体性（自己決定⇄責任） 子供たちに任せてみる



3 組織

全体会

研究推進委員会						
OMK	TM	TS	TY	MK	ST	YH

低学年分科会		中学年分科会		高学年分科会	
1年	2年	3年	4年	5年	6年
OC HA MK	TM NK TC	TS SH MH	HR TY MK	OY MK ST	MS YH HK
YM・MM		IY		YI	UH

研究発表

*発表 (MK TC TS TY ST MS YI YM)

*研究冊子 (OC TM MH HR YH IY)

*校内環境 (HA NK SH MK **MK** HK UH MM)

*太字は研究推進委員

4 研究の進め方

<研究の方向性について>

- 児童が主体的に学習する時間にするための手立てを、教科(S)、生活・総合的な学習の時間(P)において研究し実践していく。 *S(Subject) P(Project-Based Learning)
- (S)において教科は絞らない。
- 子供に任せ、教師はしっかり見取りと評価を行っていく。
- 学習内容や知識の定着を確認する「チェック」の場を設ける。
- Sにおいて、7月までに学習リーダーを中心に児童が主体的に学習時間を進めていくことを日常化する。
- 主体的・対話的な深い学びの学習活動を目指し、考察方法の研究実践を重ね、検証していく。
- 全体会での共有の場をなるべく多く設け、学年・分科会での実践の共有や全体での共通理解を図る。
- 3年間の長期的な視点で研究を進め、今年度は研究発表を行う。
(R5特色ある学校づくり推進校)(R6・R7研究協力校)

R5 特色ある学校づくり推進校

R6・7 研究協力校

〔一昨年度〕

〔昨年度〕

〔今年度〕 

(R5) 1年目前期 【課題設定・ 情報収集期】	(R5) 1年目後期 【発展・充実期】	(R6) 2年目以降 【実践・検証期】	(R7) 3年目 【実践・検証期・発表】
「主体的な児童の姿って何？」という疑問の解決に迫る段階	【課題設定・情報収集期】でつかんだ児童の実態や学んだことを生かして実践を積む段階	1年目の研究における成果と課題を基に、さらに実践を重ねる段階 * 主に(S)中心	2年目までの実践を生かし、充実を図る段階・研究発表 * (S)と(P)
- 児童の実態の把握 - 講師を招いた研修・講演 - 実践例の収集 - 研究発表への参加 - OJT等を活用した研修	- 低中高1本ずつの検証授業研究 - 成果と課題のまとめ	(S)における各学年、専科の実践授業研究 (P)についての研修 - 講師を招いた研修・講演 - 成果と課題のまとめ	(S)の充実 (P)の実践 - 研究発表(2月) - 成果と課題のまとめ

5 研究年間予定

*別紙参照

- 講師・・・(S) ^{にしどめ}西留 ^{やすお}安雄先生
日本新たな学び方研究開発ネットワーク会長
- (P) ^{さわだ}澤田 ^{みのる}稔先生
上智大学教授
- (OPPA) ^{なかしま}中島 ^{まさこ}雅子先生
埼玉大学准教授

6 4月2日(水)研究全体会

- <時間> 10:00～
- <場所> 6年1組教室
- <内容>
 - 校長より
 - 昨年度の研究、今年度の研究について
 - 自学について
 - 評価について
 - 副校長より
- <分担> 記録・・・専科